

令和7年度

徳島市千松小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童が自分の思いや考えをもち、対話することを通して考えを広げたり深めたりする授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

校長

山崎 真弘

学力向上推進員

野本 佳代

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組む児童が多く、基礎・基本的な知識・技能は、身につけてきている。 ●なかには、基礎・基本的な知識・技能が身につけていない児童もいる。また、基礎・基本的な知識を活用することに課題がある。	・既習学年や当該学年の基礎・基本的な知識や技能を確実に習得することができる。 ・身に付けた知識や技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。	・正確に読み取らせるために、教科書にアンダーラインや囲みを入れたるに捉えさせる。 ・ドリルやプリント、AIドリルなどタブレット端末を活用して、既習事項を繰り返し復習できるようにする。 ・光る子十カ条を徹底し、家庭との連携に努めることで、授業や家庭学習にじっくり取り組む習慣をつけられるようにする。	・これまでの方策を継続しつつ、それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。また、タブレット端末のドリルや学習プリント、学力向上確認プリントなどを使って、学習の定着を図る。	・既習事項の復習を授業の最初に行ったり、ドリル・プリントなどで繰り返し行ったりすることで、基礎・基本的な知識や技能を習得している。しかし、知識・技能の取得には個人差が大きく、十分身につけていない児童もいる。	・使いやすいタブレットに変更したことあり、AIドリルなどを使って児童のペースに合わせた復習を繰り返す。 ・学習を通して、語彙力や量感を身につけさせる工夫をしていく。 ・家庭への協力も求めながら、家庭学習の習慣が身につくようにしていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見を聞こうとする態度が身につけてきている。 ●根拠を明確にして自分の考えをもち、思いや考えを表現したり、伝え合ったりすることを通して、さらに考えを広めたり深めたりすることに課題がある。	・学習で課題を見つけ、話し合い活動を通して解決する方法を考えることができる。 ・自分の考えを明確にもって相手に伝えたり、相手の話を自分の考えと比べながら聞いたりして、考えを広げたり深めたりすることができる。	・ホワイトボードやメモ・付箋、タブレット等を効果的に活用して自分の思いや考えを書き意見交換をする。 ・相手意識や目的意識をもって、ペアやグループで話し合う機会を効果的に設定する。 ・児童の発表や話し合いの内容に応じ、更に考えが深まる発問を行う。	・これまでの方策を継続しつつ、発達段階に応じてタブレットを活用したり、表現の仕方を工夫したりしていく。また、友達と考えを共有する場では、思考の過程を表現したり説明したりすることができるよう、指導の工夫を行う。	・ペアやグループ活動を続けることで、自分の考えをもち、友達に伝えたり、友達の考えを聞いて自分の考えを広めたりすることができるようになってきた。また、高学年ではグループで教え合いながら共に学ぶことができるようになってきた。 ・問い返しを続けることにより、理由や過程を自分の言葉で表現できるようになってきた児童もいる。	・継続して相手意識・目的意識をもつことができるようにすることで、聞く集中力を高める。 ・思考ツールなどを用いて、友達の意見と自分の意見を比べ、共通点や相違点に気付かせ、思考の広がりや深まりを支援していく。 ・他者の意見を受け入れるだけでなく、他者の考えを自分の考えに生かしたり、視野を広げたりできるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組む。与えられた課題には、真面目に取り組む。 ●自分で課題を見つけて、工夫して学習に取り組もうとすることに課題がある。自信をもって取り組むことが苦手な児童もいる。	・各教科の学習で自分なりの課題をもち、主体的に取り組むことができる。 ・学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。とともに、自分に自信をもつことができる。	・学習課題をつかませたり、見通しをもたせたりすることで、主体的に取り組むことができるようにする。 ・スモールステップを心がけ、児童のがんばりや成果を褒め、達成感や次時への意欲、課題意識をもてるようにする。	・これまでの方策を継続しつつ、がんばりや成果が実感できるようにする。また、児童同士のかかわりからも、主体的に学習に取り組む態度の育成につなげていく。	・個々のがんばりや成果を認め、スモールステップを意識したことで、児童が安心して学びに向かうことができている。 ・与えられた課題には前向きに一生懸命取り組む児童が多いが、学力差から意欲がもてず、主体的に取り組むことが難しい児童もいる。 ・課題は与えられるものだと思っており、自ら課題を見つけることは、まだ不十分である。	・主体的な学びをめざすために、課題を自分事としてとらえることができるように工夫する。 ・どの授業においても意欲をもてるよう、単元ごとに見通しをもち、目的意識をもちながら課題に取り組むことができるようにする。 ・評価する場面をしっかりと設定し、がんばりや成果をほめていく。